

経営体の概要

- ・所在地：鳥取県八頭郡八頭町下坂442
- ・経営体名：有限会社田中農場
- ・栽培作物・作付面積：水稻・104.3ha、豆类・1.9ha、白ねぎ他野菜類・1.5ha、飼料作物・6.1ha、麦0.9ha、その他・6.4ha。計121.1ha。（令和5年実績）
- ・役員数：3名、従業員数：17名（令和6年4月現在）

導入技術

- ・GPSで位置情報が確認ができるコンバイン1台、収量計測付コンバイン1台（他に通常機1台）、トラクタ2台（他に通常機11台）田植機2台（他に通常機1台）
- ・ドローン2台（農薬・除草剤・ミネラル資材散布）による作業効率向上と適期防除・施肥の実施
- ・アグリノート（ほ場管理システム：（株）ウォーターセル製）



導入経緯

- ・複数集落にまたがるほ場が680筆以上あり、新しい従業員も毎年採用されることから、ほ場間違いによる作業ミスの防止や作業効率の向上を図る必要があった。
- ・令和2年度からスマート農機を導入開始。令和5年にアグリノートを導入し、数人の社員に偏っていた作業記録が、社員全員で記録できる体制に移行した。



スマホによる作業記録の入力



GPS機能付トラクターを使った代かき作業

取組の特徴・効果

[アグリノート]

- 680筆以上のほ場情報を一元管理。
- 社員全員がスマホを使って、広範囲の管理ほ場を確認できるため、肥料や除草剤・農薬の散布作業ミス防止が可能。
- 従来はパソコン一元管理であったほ場ごとの作業計画や記録について、スマホでの入力や閲覧が、社員全員で可能となった。
- 社長や生産主任、稲作リーダーで作業進捗の全体把握が可能となっている。

[従業員への技術伝承・育成]

- 技術伝承について、耕耘・代かき・収穫作業等のポイントを、熟練した社員から経験の浅い者に伝授されてきたが、機械操作等の技術習得に一定の期間を要していた。GPS機能付きのスマート農機等の導入により、経験年数の浅い職員でも、ほ場条件に合った正確かつ安全な作業が可能になりつつある。
- アグリノートの導入によって、作業適期や生育状況等の情報について、スマホを使って社内共有が可能となり、従業員の栽培技術の向上に寄与している。

[ドローンによる資材散布及びセンシング]

- 殺菌剤・殺虫剤やミネラル剤散布の適期散布できる。
- センシングにより、前年の幼穂形成期におけるほ場毎の生育指標数値を収集し、指標数値を基に翌年の鶏糞による基肥量をほ場単位で増減することで、適切でムダのない施肥が可能となるよう実証試験に取り組んでいる。

[収量計測付コンバイン]

- コンバインでほ場ごとの収量を把握することで、新しい栽培方法の技術評価や検証に活用できる。



GPS機能付自動操舵田植機



ドローンによる農薬散布